

## 観察会報告

# 浜名湖体験学習施設ウォットの見学と佐鳴湖の野鳥観察

横山謙二



浜名湖体験学習施設ウォット



見学会の参加者

2021年2月13日（土）、浜名湖体験学習施設ウォット施設見学会と佐鳴湖の野鳥観察会を行い、11名の参加がありました。当日は、朝少し曇ってありましたが、直ぐに晴れ間が広がって、観察会日和になりました。まずは、浜名湖体験学習施設ウォットの施設見学会です。

浜名湖体験学習施設ウォットは、浜松市の浜名湖にある体験型学習施設で、浜名湖の生き物の展示が行われています。また隣接する水産技術研究所浜名湖分場を外から見学できます。展示スペースは、大きな水族館と比べると施設内は狭く、大型の魚類や海生哺乳類等がありませんが、写真が自由に撮れ、一部で直接触れあえたりでき、ゆっくりと楽しみながら学習することができます。私も、浜名湖の淡水から海水に生息する生物の写真をたくさん撮り、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

午後1時から、近くの佐鳴湖に移動し、野鳥の観察会を行いました。佐鳴湖は、冬場ミコアイサが良く見られることで知られています。ミコアイサは、全体的に白く目の周りが黒いことから、パンダガモとも呼ばれています。あまり見ることができないので、今回の観察会では、たいへん期待していました。

午後の観察会のはじめ、集合場所の駐車場では、近くでマヒワを見ることができ、いいスタートでしたが、湖岸では、カモ等の姿が



佐鳴湖での野鳥観察の様子

ほとんどありません。しばらく観察を続け、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリなどが見れましたが、最後までミコアイサは見れませんでした。

野鳥観察のかたわら、私は参加者の渡辺さんと湖岸に打ち上げられている岩石の観察をしました。湖岸の岩石は、角礫ばかりで、その種類は石灰岩や緑色岩などの限られた岩石で構成されていました。これらの岩石は、佐鳴湖の北側の引佐地域に分布する、秩父帯の岩石の特徴です。これらの岩石は、この辺の基盤を反映しているようです。

その後、野鳥観察を続け、ミサゴが魚を獲ろうとしているところや、トビに追いまわされるノスリの姿などを見ることができ楽しい一日でした。